



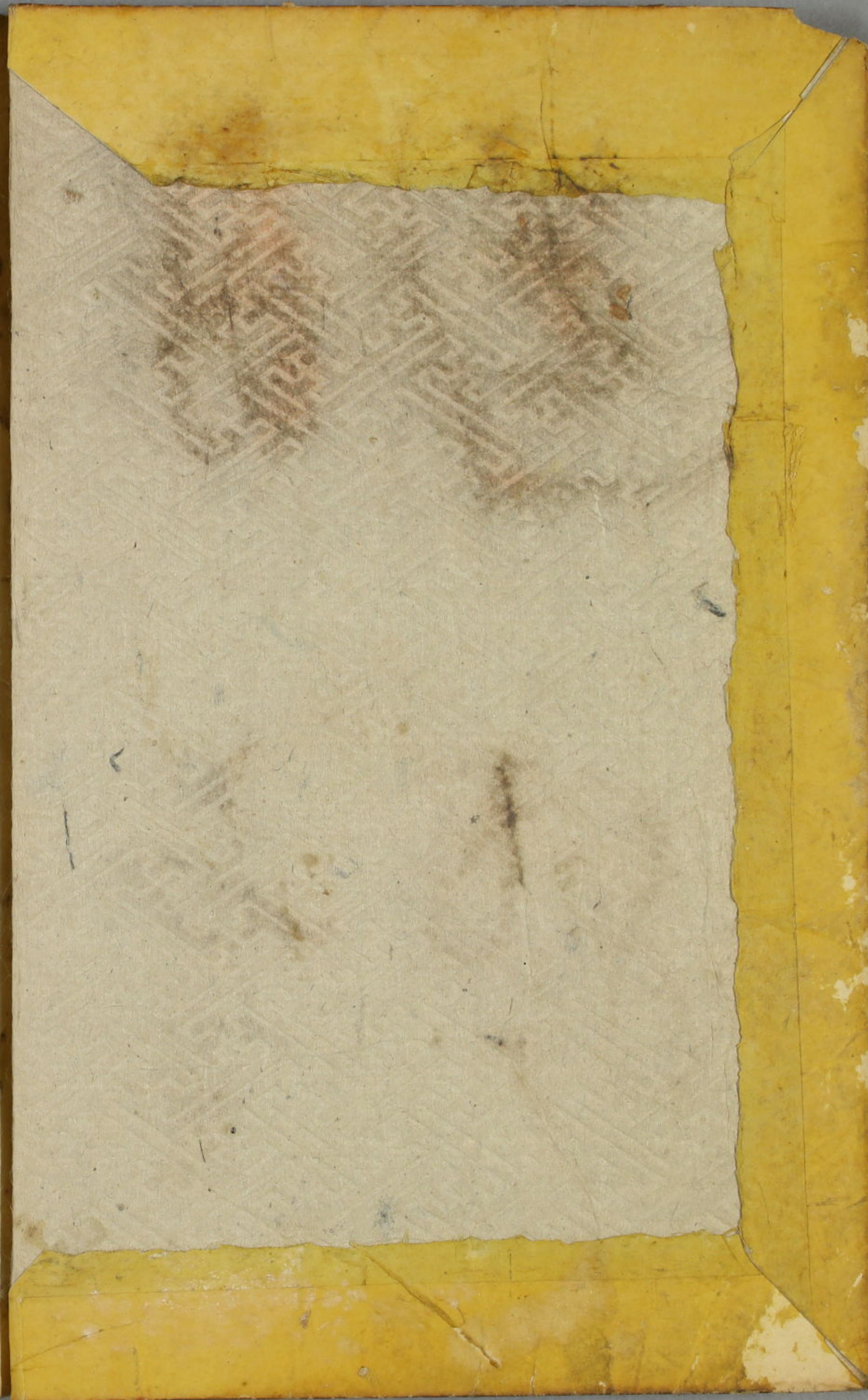
送目

目

白

文

如



心  
為  
山



見ミ京キヤウ北キツ葦イ參サン  
軍クン量リヤウ移イ東トウ陽ヤウ

潮水還歸海流人  
却到吳相逢問愁  
苦淚盡日南珠

ていすいこうつてうみよきーまーまんうつてこよいふし  
あいあふてちりくせそんかちんさつてくまつちんのみぬ

かき



さん  
ハ  
ハ



唐寺選画本 卷二 五言 色 四







春詩集 五言絶句

ていあいのちとらう  
 くるがよる月のかた  
 りゆくやうらむるよ  
 らてよかんつきんは  
 ひあのうらむるま  
 ちんいさのこを  
 きくそらあられ  
 一ふくよたののさ  
 のまうつるさる  
 くらあいのす  
 んらさあ(を)る  
 そのをうらむる  
 るれるははらさ  
 けくらのま  
 ち(あ)り  
 めさの  
 るやうま  
 たらま  
 うらむ  
 えや  
 く  
 かい  
 ま



むよき  
 とあれは  
 のさ  
 つつ  
 てい  
 ちり  
 友  
 女  
 の

春  
 心  
 祝  
 子  
 息  
 向  
 玉  
 階  
 見  
 空  
 梅  
 花  
 中  
 時  
 光

蕭々木

うらうらんとやみまじりて  
をきくやんけいせん  
せいふいのうをく

空山不見人 但聞人語响  
返景入深林 照青苔



唐詩選画本の初め  
すしやうなまのまじり  
せいのまじりなまじり  
二十げいのひまじり  
さるくことまじり  
山まかりまじり  
いふのまじり  
ふこまじり  
あひまじり  
まじりのまじり  
まじり



唐詩選画本の初め  
すしやうなまのまじり  
せいのまじりなまじり  
二十げいのひまじり  
さるくことまじり  
山まかりまじり  
いふのまじり  
ふこまじり  
あひまじり  
まじりのまじり  
まじり





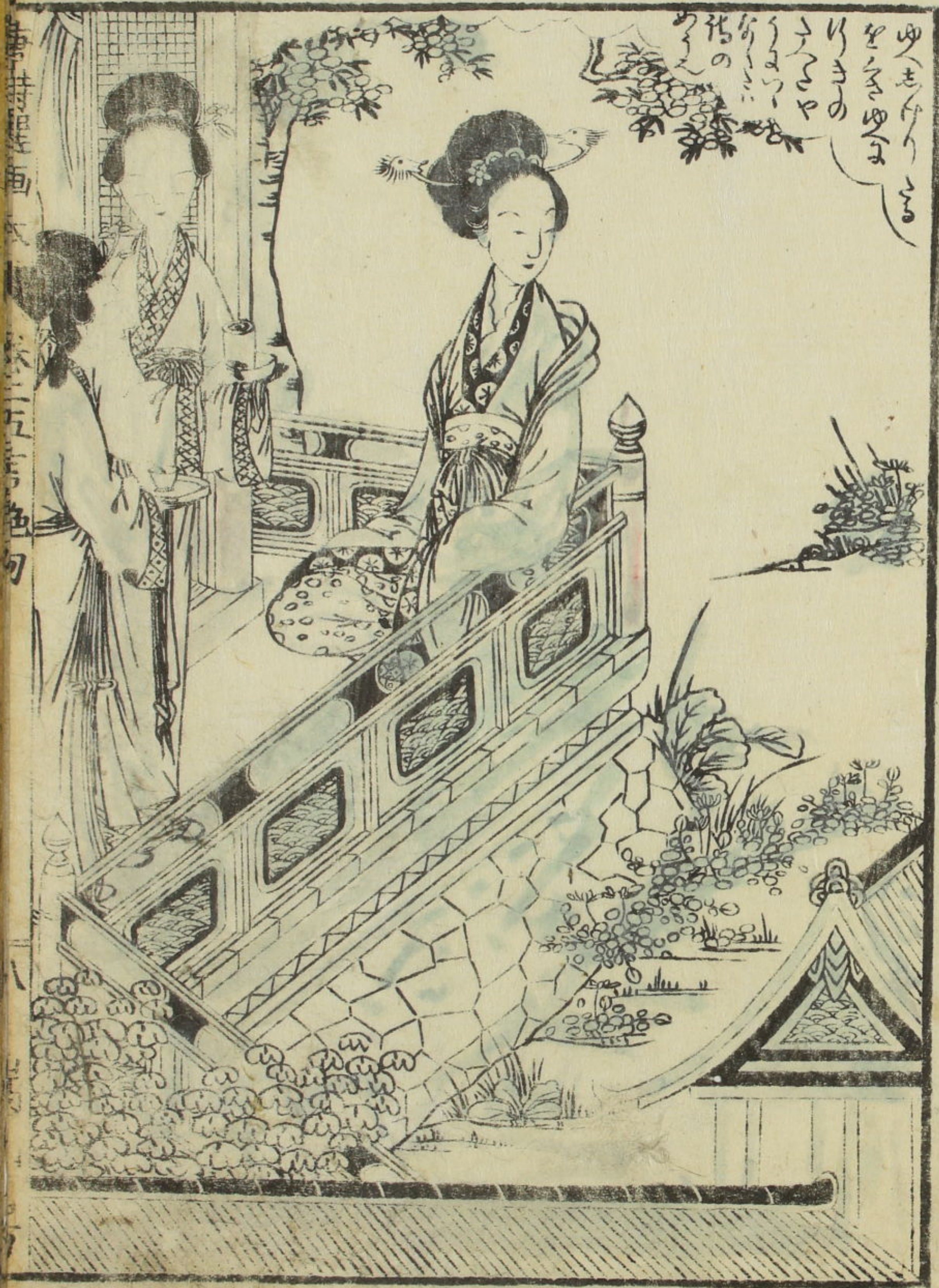
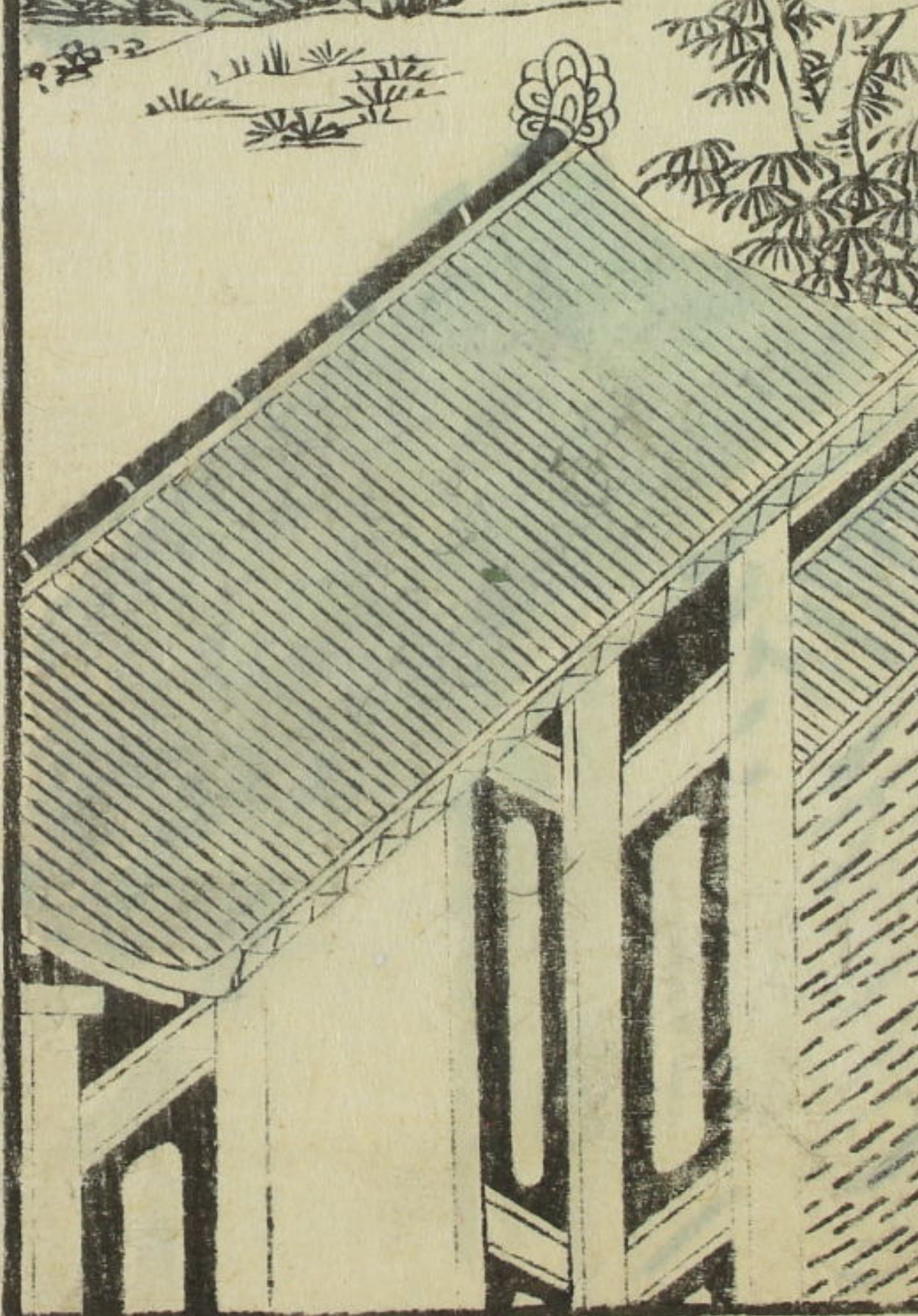
長信草

崔國輔

長信宮中艸年々愁處生時侵珠  
履跡不使玉階行

てうきんきう中のなをねん  
ねふもそころよまきやすすきよまき  
のあととねしてきよかよゆめす

春のがふきう多んてうきんきうハ  
長信のこまをさるふの対よんき  
ふてふまきをさるふの対よんき  
あはれとてみゆきもなりぬれ  
もせすけいさもまはれぬれ  
るふなりさハハのす  
なまのこまをさるふの対よんき  
履のくさくねん  
まのまゆりしぬれの  
もふつぬやあき  
てあまののまもかゆれ  
ぬやよまき  
もふてふまき



ゆきんきう  
をさるふ  
りまの  
まのま  
ゆの



少年シヤウネンり

さんこのむちをいさむくしてそくをわけてゆ  
すまやうふふうてまをまふまふふうのまふ

遺却珊瑚鞭 向馬驕不行 章臺折  
楊柳春日路 傷情

かふりいものゆきんはあかきをりか  
のむちハオてヌーと又あそりをりか  
子のむちをまふてはちやつてまふて  
かふりいものゆきんはあかきをりか  
のむちハオてヌーと又あそりをりか  
子のむちをまふてはちやつてまふて

送朱大入秦

王浩

送人五陵去  
交游直下  
空分  
送  
况  
相  
贈  
平  
生  
心

送朱大入秦 王浩 送人五陵去交游直下空分送况相贈平生心











唐詩選 卷三十五 終



長安道

わいん志あしりんあくまやうそんよあそ  
ふひやくまいちーまあれんまやうをまてらんま

馬鞭を酒肆に招き遊伴つる所あり  
馬情を酒肆に招き遊伴つる所あり

唐詩選 卷三十五 終

唐詩選 卷三十五 終







唐詩集卷之六

六

送郭司倉

王昌齡



北

目

京

都

大

仁

田

學

校

全

本

大

活

部